素描

学業成績と会社での成長性

横山 亮次 ● 日立化成工業（株）

私は社会人となってから今まで同じ仕事をし続けている。この体験から考えてみると学業成績だけでは数々の製品開発はできなかったと思う。どこの企業も学生を採用するに際しては学問に精進したかどうかの実績を第一条件としていると思われるが、そのほかに性格が明るい、協調性を有しているか、仕事に喜びを求めるか、クラブ活動に参加していたかなど、総合的な判断で採用することを決定している。特に技術革新の早い今日においては、企業の気風に一日も早く馴染み、与えられた仕事はもちろんであるがそれ以外のことに積極的に対応し、その結果として創造性豊かな人材が一人でも多く育つことを望んでいる。学業成績はこの創造性へとつながる一つの判断基準であるが、創造性は数多くの努力と精神を一点に集中して物事を深く見つめるということによって生まれてくるものといわれている。学業成績も精神の集中によって得られるものであるが、学生の本分は学業成績のほか、人間形成も目的の一つとされている。この人間形成は読書、スポーツなどによって得られ、その成果は明るい性格、人との協調性、粘り強く研究に取り組む能力、発表能力、自己過信の抑制、人の意見を聞くなどとなって現われてくる。そのため採用する側にとってみれば、学業成績のほか多角的に精神を一点に集中することを習得した人ほど会社に役立つと考えている。社会人となった後、どちらかというと、学業成績だけを重視してきた人は一般的に見て協調性が乏しく自己過信が強く、上司、同僚、部下との対話が弱く、また顧客より製品開発改良の依頼も得られにくい。製品の開発改良は目に見えないものを目に見える形に変えていったり、一つの特性をより高度の特性へと変えていくのであるから、自然と謙虚な気持ちを持ち、人に教えを仰ぐ

という姿勢となつてほしい。特に最近の顧客は製品開発競争の激化から、我々化学系企業にも難解と思われる問題もしばしば提案してくる。顧客からのこのような提案は、これを受ける技術者が顧客に愛され信頼されるということが第一条件であつて、そのためには入社後、人にまさる努力を研究開発に注ぎ、そして豊富な知見をもつとともに社内外の発表も行ない、実力を蓄えていく必要がある。「困難な仕事に直面した時、人にまさる努力をすること」これは学業成績だけに明け暮れた人にとっては疑問視されるところが多いといわれている。体力と気力と知力と他人の意見を求めることなどによって初めて得られるものである。研究開発は必ず行き詰まってしまう時がある。このような時、体力がなければその壁を破ることができないし、気力の乏しい時は壁は破れないし、また自分の乏しい知力に頼りすぎる時も壁は破れないと思う。一つの放心状態となった時、仕事を忘れて放談の中から他人の意見を求めたり、スポーツなどで頭脳を柔らげたりすると思わぬ解決策が生まれてくるといわれている。そのため学業成績はすべてに優れている必要はないが、これはと思った課目、自分の得意とする課目については他にまさる成績であつてほしい。そうすれば自然と採用へとつながっていくと思う。

実社会は一つの集団生活であるからその生活の中に一日も早く溶け込み、そして自己の専門分野で研鑽を積むとともに人間形成にも一段と努力されることを期待したい。そしてますます多様化している高分子材料の開発が華々しく開花していくことを望んで止まない次第である。

Ryoji Yokoyama, 日立化成工業（株）（163 東京都新宿区西新宿 2-1-1）取締役社長・工博
＜略歴＞昭和 19 年東京工業大学応用化学科卒、19 年（株）日立製作所入社、38 年日立化成工業（株）転属、46 年下館工場長、47 年取締役、48 年常務取締役、52 年専務取締役、56 年取締役社長。